

JICA 2022.10.22.
D-アライヴ 3/31 直り.
シーズン6(7)

氏名 マルファン

柴田 楓 さん (25)

大学院卒

独身。ひとり暮らし。

化粧品メーカーの研究開発部門
に勤務(入社2年目)

設問

今だったらどのような質問ができるのか?

[問い1]

- (1)冒頭におきました。誰かに話そうと思っても、なかなかわかってもらえない人がいないというのは、どういう事ですか?
- (2)わがままで調べるという葉田さんのスタンスが「きき」ほどの研究開発のワクワクするという部分の根本にあるのでしょうか?
- (3)想像以上に個性的な職場の方に関して、社員が「おもしろい」というのは、どのような方がいらしてらっしゃるのでしょうか?
- (4)日常で当たり前にある事を、この先もずっと続けている。それを疑問に思わなければいけないと思いませんか?
- (5)葉田さん理解性前置の感覚を子どもが嫌がらんと持っている。この先その感覚で働かなくていい事をどう思っていますか?
- (6)先輩の言ふことに納得していないけれど従わなければならないというのは、どのような事があったのでしょうか?

[問い2]

軸がた点

事例Iの CCt10 (相応しい・相応しくない)

理由: CLの発言に添って、言語的軌跡の中で、問いかけと続ける事ができたことにより、職場の人間関係や今の仕事を続けている事に対するCLの気持ちの部分で下す話して来た「事ができた点」。

悪化点

事例IIの CCt11 (相応しい・相応しくない)

理由: 子どもの時からやっている事が変わらず、CLにとって、当たり前と思えるスタンスで働き続ける事に悩んでいる原因となっている事が何故という部分について、15分の中では深掘り可能な事ができた点。

[問い3]

主訴

CLは化粧品メーカーの研究開発部門にJOB型雇用で入社し2年目にはいるが、この先を考えると、このまま続ける事について不安がある。そこで話を伺うべく、個性的で主義主張の激しい周りの人との人間関係について働かなくていいと感じている点や、子どもの頃からCLの物事に対する当たり前のスタンスの理仕事を可相自身に好む。このまま良いかわからない気持ちがある点で、不安の原因になっている様に思われる。職場の人間関係と研究開発の仕事への向き合い方に対して自己理解不足が、現時点での主訴である。

[問い4]

二の後の可相めち

この後は、CLが「子どもの頃からやっている事が同じ」と思っている事についてもう少し伺っています。天職に就く事や、そこからつながり、続けるべく事への不安を問いかけを通じて明確にしていただく。そして、不安を理解してくれよう人がいないと思っている事について詳しく聞いていき、職場の人間関係の悩みを解決するのはどうすれば良いか、一緒に考える。また研究開発の「ワクワクする」という部分も、子どもの頃のCLの物事の好き嫌いから話を伺っていき、スタンスが原点にある事に気付いてもらい、あきらめて、子どもの頃の当たり前が仕事にならなくて不安がある事を考えてもらい、それを抱えて働く事ができる様子を支援する。